



# のりお通信

## テーマは予防と実行力！

皆様お元気でしょうか。私の市政活動報告をお読みいただきありがとうございます。

さて、平成27年度は仙台市震災復興計画の最終年度であるとともに、震災復興後の仙台市の将来像を描く時期でもあります。

将来展望の視点は様々ありますが、私は『予防』という観点を重視する必要があると考えます。『予防』とは、「悪い事態が起こらないよう前もって防ぐこと」です。人口減少社会の到来を前に、仙台市の持続的発展を図るために何をすべきか考えてみました。

### ■健康寿命の延伸

高齢化社会が進展するなか、介護を必要としないで自立した生活ができる期間、いわゆる「健康寿命」をできるだけ伸ばしていくことが重要です。このためには、健康づくりを推進するとともに、介護予防や認知症予防を充実していく必要があります。このことにより、個人の生活の質の低下を防ぐとともに、社会的負担の軽減にもなります。

### ■事前防災・減災対策の推進

東日本大震災の教訓を踏まえ、災害発生時の被害を最小化する「事前防災」「減災」の取り組みが重要です。このため、建築物の耐震化、ライフライン及びインフラの確保対策を進めるとともに、防災教育・防災訓練を充実し、総合的な防災力の向上を図る必要があります。



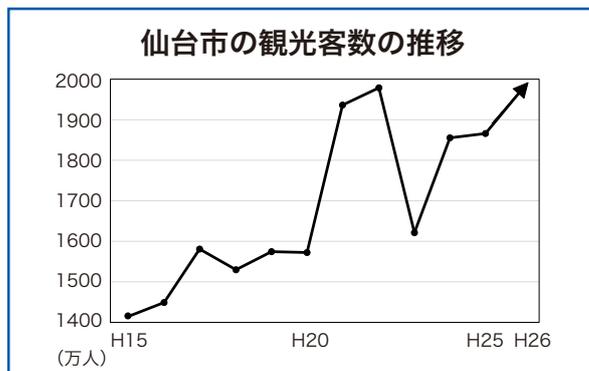
仙台駅の帰宅困難者対応訓練

### ■若者参画の推進

地域の持続的な発展を促すのは、国からの財政移転でも公共事業でもありません。今まで誰も気づかなかったようなイノベーション（革新）こそが持続的な発展を支えます。仙台市の将来を担う若者の参画をこれまで以上に促し、イノベーションを起こし、真の意味での地方創生を実現する必要があると考えます。

### ■地域活力の創生

人口減少や震災復興後の景気後退が懸念されるなか、これまで以上に、人をひきつけ躍動する仙台の魅力と活力づくりが求められます。このため、地域企業の飛躍と競争力強化、新ビジネスの創造や、集客観光をはじめ街の賑わいづくりなどに総力を挙げて取り組む必要があります。



### ■子育ての支援

子育て世代で共働きを選択する夫婦が増加しています。共働きを継続するうえで、壁となっているのが「待機児童」などの育児問題です。仙台市では、保育所を増やしていますが、待機児童問題は一向に改善しません。現在の整備計画に上積みし、保育所など保育の受け皿を大幅に増やし、待機児童の解消を図るべきです。また、対象学年が拡大する学童保育についても、取り組みを強化していく必要があります。

